

令和7年度母子保健指導者養成研修

研修6

児童福祉施設等における食事の提供に関する研修

事例紹介2

特別な配慮を必要とするこどもへの支援について（医療的ケア児・障害児）

我孫子市こども発達センター
管理栄養士 飯塚美由紀



発表者紹介

- 管理栄養士として24年目
- 我孫子市役所 21年目（平成17年入庁）
- こども発達センターと生活介護事業所（成人の障害者通所施設）を兼務
- 1歳児から成人期まで、障害のある方の食支援に従事



我孫子市こども発達センター



目次

1. 我孫子市とこども発達センター
2. こどもの偏食への課題
3. 事例紹介
4. 偏食対応を支える多職種連携
5. まとめ



第1章 我孫子市とこども発達センター

1. 我孫子市とこども発達センター

- 2. こどもの偏食への課題
- 3. 事例紹介
- 4. 偏食対応を支える多職種連携
- 5. まとめ



手賀沼のうなぎちゃん
我孫子市公式マスコットキャラクター
©我孫子市2012



我孫子市の概要



- 人口：約 13 万人
- 千葉県北西部に位置
- 都心へ好アクセス
- 手賀沼・利根川など自然が豊か
- 保育所待機児童ゼロを継続

市として摂食に重点的に取り組んでいる



我孫子市こども発達センターの概要

- 公設公営（我孫子市直営）の児童発達支援センター
- 児童福祉法に基づき設置
- 地域の中核として通所の専門的支援／家族・関係機関への相談・助言
- 昭和４９年 簡易マザーズホームとして開設
- 平成１１年 再編され「我孫子市こども発達センター」に

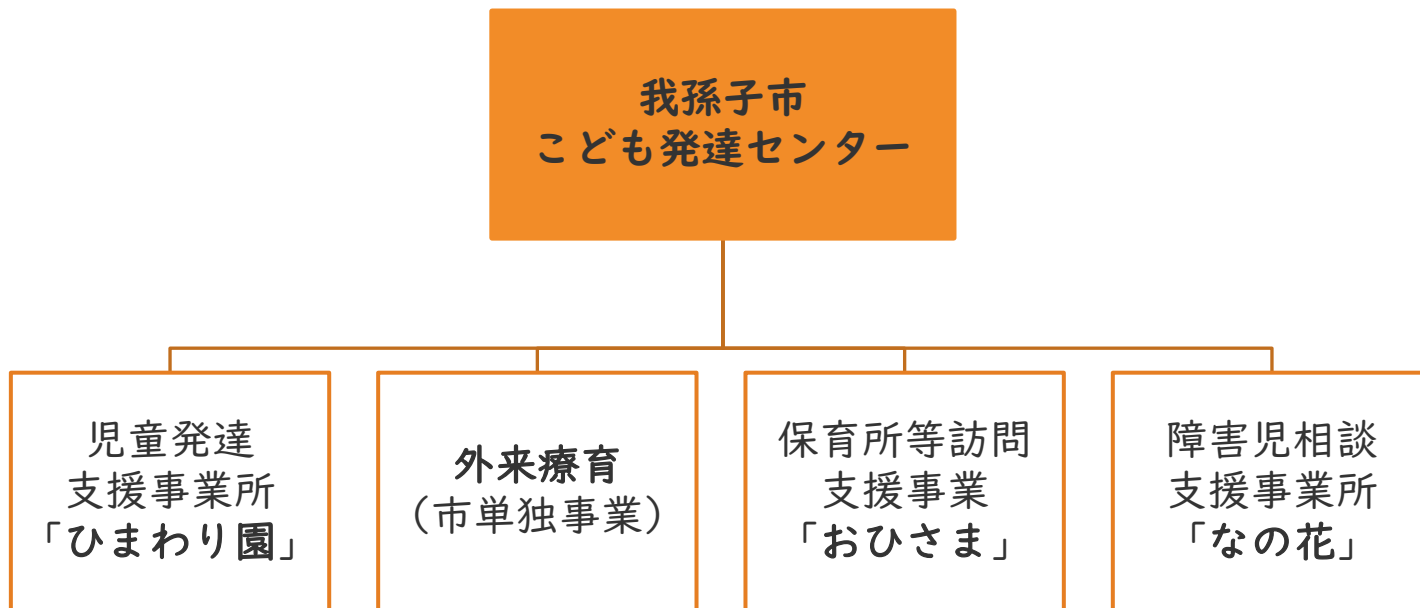


センター外観



センターの4つの事業

- 4つの事業を実施



児童発達支援事業所「ひまわり園」

- 対象：発達に課題のある未就学児とその家族
 - 定員：１日３０名
- ３歳未満児：週１～２回、親子登園
- ３歳以上児：週４～５回、うち週１回は親子登園
- 小集団活動
 - 運動・感覚・リズム・製作など
- 基本的な生活習慣の確立、就園・就学に向けた支援
- 親子で給食を食べ、食事場面での関わりを療育



第2章 こどもの偏食への課題

1. 我孫子市とこども発達センター
2. こどもの偏食への課題
3. 事例紹介
4. 偏食対応を支える多職種連携
5. まとめ



手賀沼のうなぎちゃん
我孫子市公式マスコットキャラクター
©我孫子市2012



こどもの偏食への課題

全体像

- 発達・身体的要因
- 食環境の要因
- 心理的要因



こどもの偏食への課題

例



- 感覚過敏：カリカリ
 - 揚げ物の衣だけ食べる



- 食べられるものが少ない：白いもの
 - ご飯・豆腐・うどん など



- 混ぜた料理を嫌がる：混ぜご飯
 - 具が混ざっていると食べない



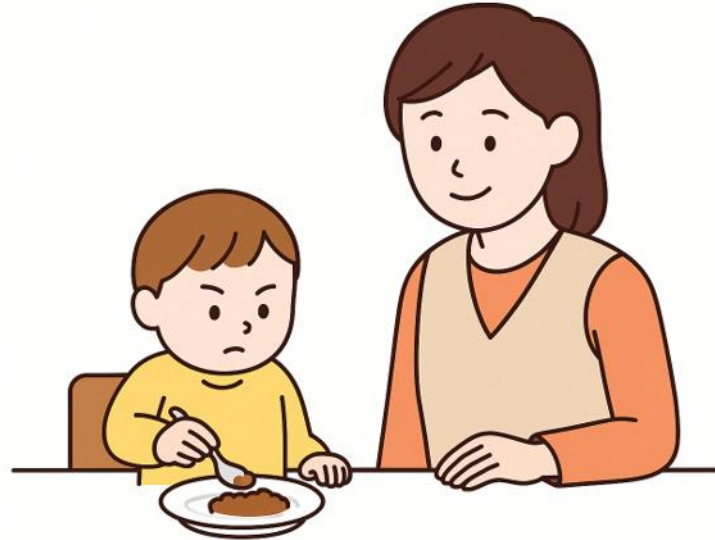
保護者の視点

- 野菜を食べてほしい
- スプーンや箸を使ってほしい
- 食事時間や残食でつらい



職員の視点

- 安全最優先
- 小さな成功体験の積み重ね
- 発達段階を飛ばさない
 - 例：手づかみ経験なしでスプーンに進むと…



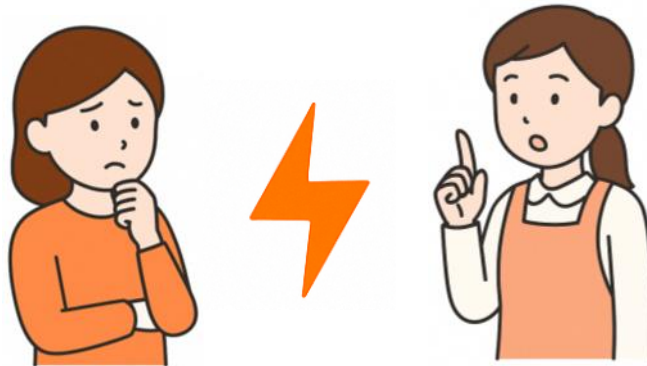
視点のギャップ

保護者の視点

- 野菜を食べてほしい
- 毎日毎食、用意しても食べてもらえずつらい
- 年齢相応にスプーン・箸を使ってほしい

職員の視点

- 安全に食べられること
- 成功体験を積む
- 発達段階を飛ばさずに支援する



第3章 事例紹介

1. 我孫子市とこども発達センター
2. こどもの偏食への課題
3. 事例紹介
4. 偏食対応を支える多職種連携
5. まとめ



手賀沼のうなぎちゃん
我孫子市公式マスコットキャラクター
©我孫子市2012



事例①：Aくん

入園児の背景

- 3歳でこども発達センターとつながる
 - 入園当初は2歳児クラス（年少の前段階）
- ベビーフード中心、哺乳瓶（人工乳）へのこだわり

➡ 幼稚園を希望したが、食事がネックで断られていた



事例①：Aくん

ひとくちチャレンジ

- 残すものは「せんせい、へらして」と伝える
- 食べたいものは「ちょうだい」と正しく要求
- 残すものは「ひとくちチャレンジ」に取り組む
- 終わるときは「バイバイ」
- できたときは大きく褒める



事例①：Aくん

ひとくちチャレンジの流れ

少しずつ段階を踏んで進める「ひとくちチャレンジ」の流れ



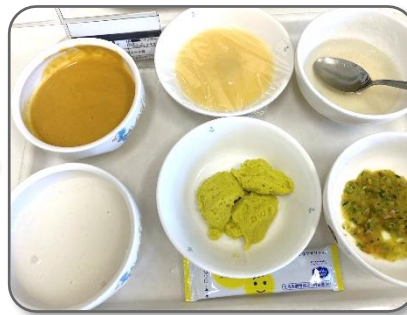
事例①：Aくん

食形態：ペースト → ムース

- 過敏が強く粒を拒否するため、ペースト食から開始
- 好きな料理は形態を上げ、苦手な料理はペーストに
- 鮭のムースは皮を添えて、見た目を工夫



全ペースト



ペースト・ムース
混在



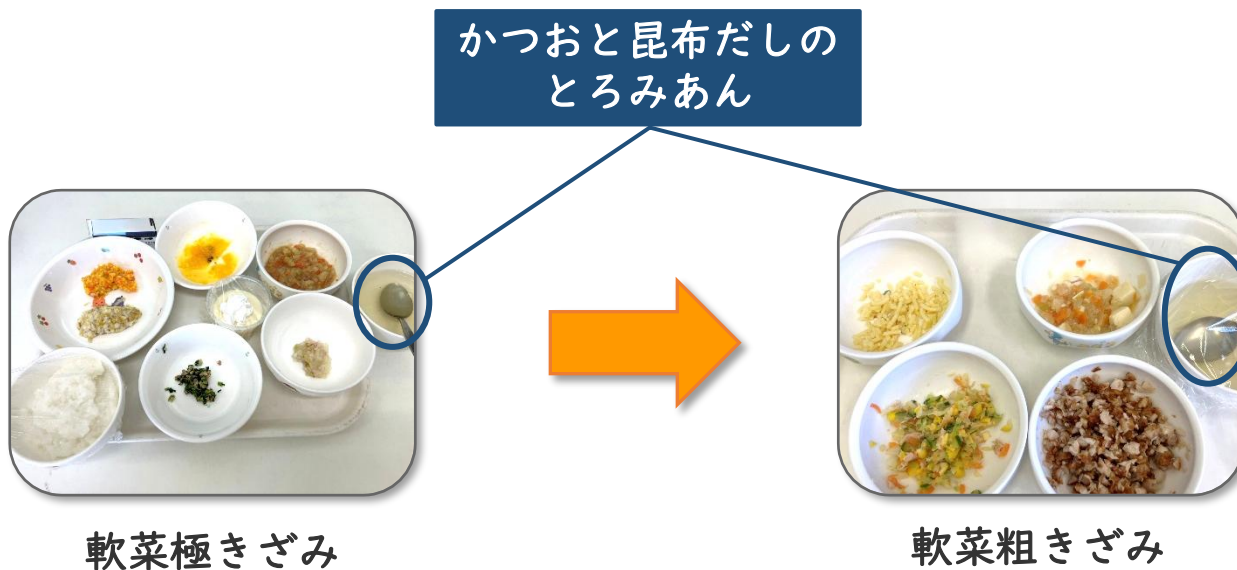
ムース



事例①：Aくん

段階②：軟菜 極きざみ→粗きざみ

- 粒に慣れることを目的に段階を調整
- 極きざみは離乳食中期レベル
- 粗きざみは離乳食後期レベル



事例①：Aくん

取り分けの工夫

- 苦手な食材も、食卓にあることから始める
- 先回りせず、こどもが自分で選ぶ流れを大切に
- 食べたいものは「ちょうだい」、苦手なものは「ひとくちチャレンジ」で「バイバイ」
- 自分で伝える体験を通して、安心感と信頼につなげる



混ぜた料理 (Before)



取り分けた料理 (After)



事例①：Aくん

落ち着ける環境づくり

- 周囲の物音や声で気が散りやすかった
- 部屋の隅の席に変更
- 衝立で仕切り、落ち着いて食べられる環境を整えた
- 集中できるようになり、食べる量が増加



隅に席を配置
衝立で囲う



事例①：Aくん

変化と現在

- 入園当初はペースト粥やベビーフード中心、哺乳瓶に強いこだわりがあった
- スモールステップの取り組みで、ムース → 軟菜きざみ食へと進み、少しずつ粒のある食事に挑戦できるようになった
- 集中できる環境づくりで食べられる量・種類が増加
- 令和7年4月から幼稚園入園（当面はお弁当持参）、ひまわり園を退園

就園につながった事例



事例②：Bくん

背景①身体特性

- 基礎疾患により疲れやすい
- 昨年までは安定して座位を保つことが難しかったが、現在は可能になってきた
- 衝動性が強く、姿勢が崩れやすい
- 手の動きが不安定
 - スプーンを持たせているが安定せず、手づかみで指で押し込むこともある
- 保護者は食具の使用を望んでいる



事例②：Bくん

背景②食事の特徴

- 家庭では白飯・目玉焼き・パンを好み、ソースなど濃い味を好む
- 園では、白飯（タレがけ）、デザート・揚げ物を中心に食べている
- 好き嫌いがはっきりしており、好きなものには前のめり
- 見た目や形の違いに敏感
 - 本来望ましい形態は「まとまりマッシュ」相当
 - 刻むと拒否
- 現状は常食に近い形で安全に食べられる工夫をしている



事例②：Bくん

支援①：園での対応

- 混ぜご飯や麺の日は白飯を別に用意
- 「まともマッシュ」や「軟菜粗きざみ」は強い拒否があるため工夫
- 「そのまま」・「軟菜きざみ」または「マッシュ」を提示
- 目の前で切り、「同じだよ」と声かけ
- 見た目へのこだわりに配慮して経験を広げる
- 苦手なものは「ひとくちチャレンジ」で段階的に支援



Bくんに合わせた提供



事例②：Bくん

支援②：環境調整

- 姿勢を整えるための支援
- 座位保持椅子を使用し、落ち着いて食事に向かえる環境をつくる
- カットテーブルに肘をつけて体を支える
- 職員が左手を一緒に器に添え、安定して食べられるようサポート



Bくんが使用する
座位保持椅子と
カットテーブル



事例②：Bくん

偏食対応のまとめ

- 基礎疾患による姿勢の課題がある
- 食形態は学会分類2018「まとまりマッシュ」や軟菜きざみを応用
参考：発達期摂食嚥下障害児（者）のための嚥下調整食分類2018
- 偏食対応は安心感を重視し、段階的に挑戦
- 継続支援中（在園中）



第4章 偏食対応を支える多職種連携

1. 我孫子市とこども発達センター
2. こどもの偏食への課題
3. 事例紹介
4. 偏食対応を支える多職種連携
5. まとめ



手賀沼のうなぎちゃん
我孫子市公式マスコットキャラクター
©我孫子市2012



摂食相談シートの活用

- 令和7年度から導入
- 観察・整理・記録
- 職員間の共通理解（3カ月後に再記録）

名前	年齢	利き手	基礎疾患	食形態	摂食の仕方	★★★禁忌事項
	歳児	右・左 両方・未		ペースト・ムース・半固形（舌でつぶせる）・固形（噛む）・刻み食	自食・介助 半介助	

★相談内容（気になる行動・癖）

一口量が多い・ペースが速い・押しつぶし食べ（エキス吸い）・押し込み食べ・丸のみ・スプーン噛み・食べこぼしが多い・反すう・偏食
その他（ ）

○一口チャレンジ

チャレンジしている食べ物：（ ）
見る一近づける一触る一口唇に触れる一口を開ける一摂り込む

○姿勢・操作

座位：自立・座位保持椅子・補助椅子・他（ ）
姿勢：安定・不安定
手指操作：手づかみ・パーム・フィンガー・ペン・他（ ）

○口腔機能・捕食機能

口唇閉鎖：あり・なし
口唇の動き：なし・口角が左右対称に引く・ランダムに動く
舌の動き：なし・前後・上下・左右・ランダム
顎の動き：なし・上下・左右・ランダム・かじり取り

○感覚面

過敏さ：なし・あり（肩・頬・口角・口唇・歯・歯茎・舌・他）

	OK な感覚	NG な感覚
見た目		
におい		
味		
音		
質感		

水分摂取　むせ：あり・なし
コップ飲み・カットコップ・レンゲ・スプーン
補助コップ・哺乳瓶

摂食相談シート（表面）



カンファレンスの実施

- 摂食相談シートを活用し、カンファレンスを開始
- 年2回の定例化を目指す
- 多職種（保育士・児童発達支援員・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師）が参加
- 課題を共有し、支援方針を一致

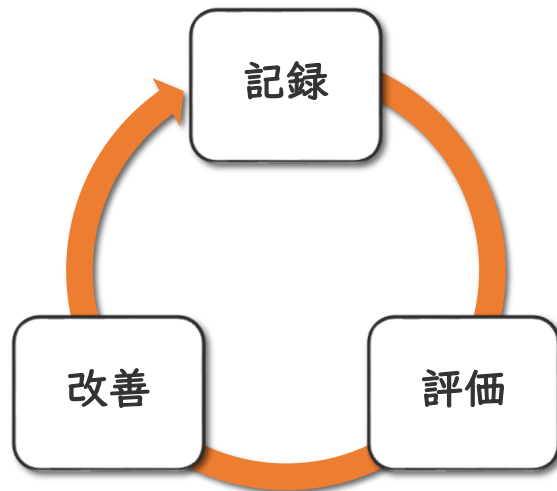


多職種で情報を共有

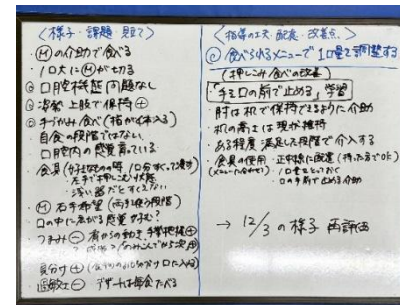


課題の整理と検討

- 事例を基に課題を共有
- 改善点を検討
- 支援の工夫を明確化



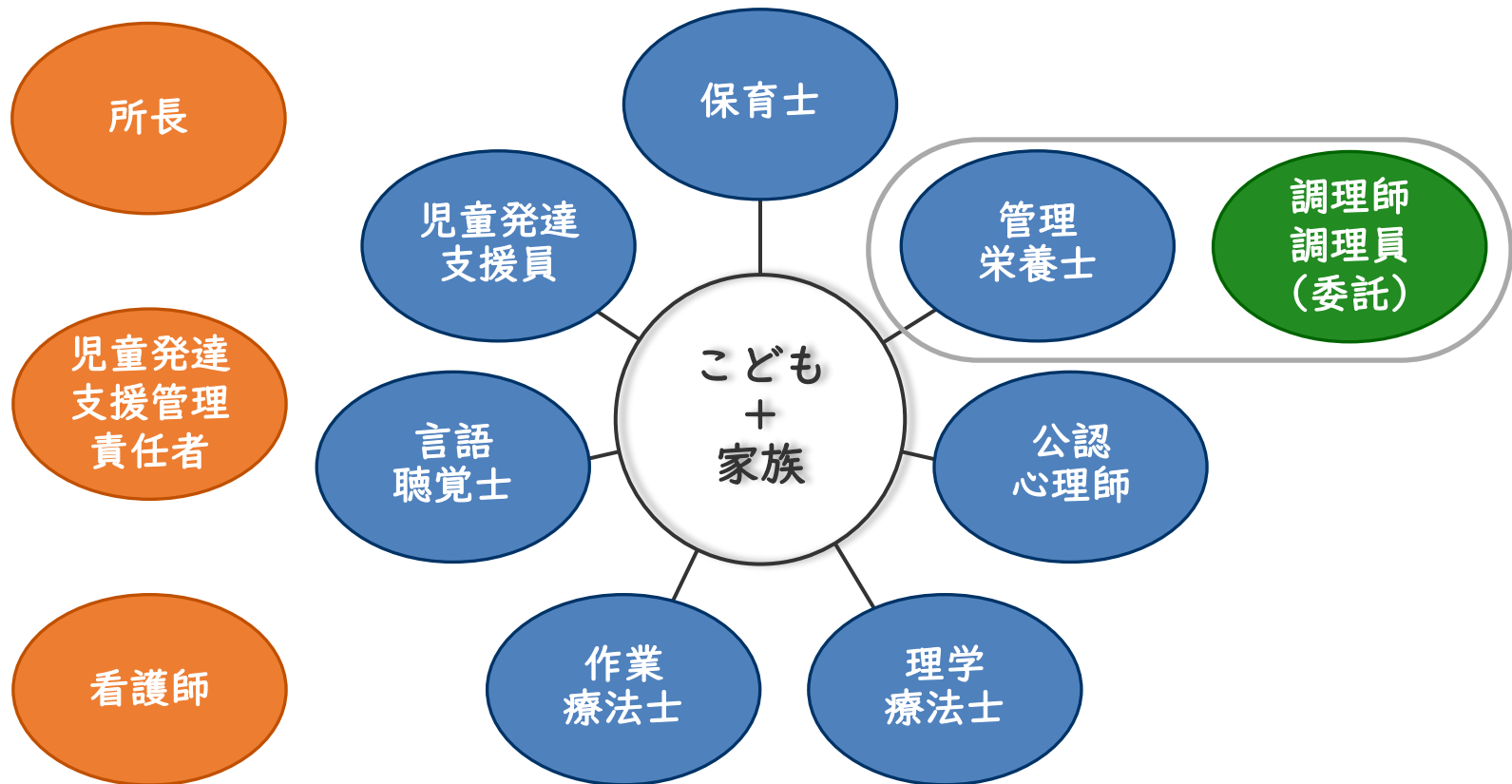
摂食相談シート（裏面）



課題を整理したホワイトボード



偏食対応を支える多職種連携



摂食支援の多職種連携の構成



偏食対応を支える多職種連携

まとめ

- こどもの特性と困りごとを見える化
- 安心して食べられる工夫を多職種で共有
- 日常の支援につなげ、一口への挑戦を支える



第5章 まとめ

1. 我孫子市とこども発達センター
2. こどもの偏食への課題
3. 事例紹介
4. 偏食対応を支える多職種連携
5. まとめ



手賀沼のうなぎちゃん
我孫子市公式マスコットキャラクター
©我孫子市2012



偏食対応のまとめ

- 安全を最優先
- 小さな成功体験の積み重ね
- 家庭との連携を大切に



多職種連携のまとめ

- 多様な専門職が関わる
- 役割を尊重して連携
- 共通の目標を持つ



全体のまとめ

- 一人ひとりのこどもに向き合う
- 小さな工夫が「できた」につながる
- こどもの時期だからこそできる支援
- 就園・就学を見据えて
- 献立・食形態の工夫で支える



児童福祉施設における障害のある こどもに対する栄養管理の実践事例集

- こども家庭庁事業の実践事例集（令和7年4月公開）
- 障害のあるこどもの食事の課題と支援を全国から収録
- 我孫子市こども発達センターの事例も掲載



二次元コードからも閲覧可能



実践事例集（令和7年4月公開）



この事例が、皆様の現場での偏食対応の
参考になれば幸いです。
ご視聴いただき、ありがとうございました。

